

2022年度業務実績報告書

提出日 2022年12月22日

1. 職名・氏名 教授・黒田祐二2. 学位 学位 博士（心理学）、専門分野 心理学、授与機関 筑波大学、授与年 2003年

3. 教育活動

(1)講義・演習・実験・実習	
① 担当科目名	生徒・進路指導論（2単位） 1～4年生
② 内容・ねらい	生徒・進路指導を進めるために必要な視点、知識、方法を身につけることがねらいであった。児童期から青年期までの生徒・進路指導上の問題についての具体例から、指導の進め方について学生自身が考えられるようにした。
③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫	<p>生徒進路指導論の講義では、基本的な知識を身につけると同時に、指導の進め方について理解するなど実践的な学びが必要である。また、教員の話しを一方向的に聞くだけでは学生の主体的な学習につながらないと考えられる。このような考えに基づき、以下の工夫を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・具体的な例を提示し、生徒・進路指導の進め方について学生が自ら考えると同時に、グループディスカッションにおいて学生同士で考えを発表させた。 ・ディスカッションの結果を踏まえて、教員が指導方法について講義を行った。 ・基本的な知識を教授する際は、学生が理解しやすいように視聴覚教材を適宜用いた。 ・講義の重要ポイントを理解し、知識の定着を図るために、穴埋め式の講義ノートを配布した。 <p>また、授業14回分のリアクションペーパーを1枚の用紙にして、学生が書いた疑問点や感想にコメントをつけて返却するようにした。これにより、学生と双方向のやりとりをするよう努めた。</p>
① 担当科目名	教育心理学（2単位） 1～3年生
② 内容・ねらい	学習と発達に関する教育心理学の考え方と知識を身につけ、それらを教育現場に応用できるようにすることをねらいとした。また、「意欲の低下」や「学力の低下」など教育現場で問題となっている現象を取り上げ、教育心理学の立場からその原因や対応について講義した。
③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫	<ul style="list-style-type: none"> ・教職課程の講義であることを踏まえ、知識偏重になるのを避け、事例や学校での指導例を提示し、教育実践に応用できるようにした。 ・学習意欲や無気力、学力や児童生徒評価の問題など、教育現場において問題となっている事柄について取り上げた。 ・学生の理解がはかどるように、視聴覚教材を適宜用いた。 ・講義の重要ポイントを理解し、知識の定着を図るために、穴埋め式の講義ノートを配布した。 ・授業14回分のリアクションペーパーを1枚の用紙にして、学生が書いた疑問点や感想にコメントをつけて返却するようにした。これにより、学生と双方向のやりとりをするよう努めた。
① 担当科目名	導入ゼミ（1単位） 1年生
② 内容・ねらい	大学での学習・研究に必要とされる、文献の探し方、レポートの作成方法、プレゼンテーションの方法、批判的思考力を身につけることをねらいとした。「ストレスと心の健康」を題材として、各自が興味を

もったトピックに関して文献を調べ、成果をまとめたり、ディベートをしたりする中で、上記のスキルの習得を目指した。

③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫

ストレスと心の健康に関して学生自身が興味をもったテーマの中で、文献の収集・まとめ・発表の作業を行わせた。文献の探し方、レポートの作成方法、プレゼンテーションの方法、批判的思考力を、体験的に身につけられるように、自分のテーマに関連する文献を自分で図書館やインターネットを使って探す、レポートの良い例と悪い例を提示して学生に分析させる、自分で調べたことをパワーポイントで発表する、学生同士でディベートを行う、などの工夫を行った。また、少人数であることを活かし、授業の中で個別的な指導を行うなどの工夫を行った。

① 担当科目名

教育相談（2単位） 1～4年生

② 内容・ねらい

不適応を起こしている児童・生徒を援助するために必要な考え方や方法を身につけることをねらいとした。具体的には、児童・生徒の心の問題の性質や背景、それらを理解するための視点や方法、問題や悩みを抱えている児童生徒への援助の仕方を、事例を用いた演習やロールプレイなどの実習を通して体験的に身につけることをねらいとした。

③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫

教職課程における教育相談の講義であることを踏まえ、以下の工夫を行った。

- ・「教員の話しを一方向的に聞いて、知識を蓄積する」という知識中心の受動的な学習だけでなく、実際の児童生徒の事例を提示し、その事例をどう理解し、その児童生徒にどう援助するかを学生自身に考えさせた。また、学生が考えたことをお互いに発表してディスカッションさせた。
- ・ディスカッション後に教員がまとめの講義を行った。
- ・カウンセリングのスキルを、ロールプレイにより体験的に学ばせた。
- ・知識面の教授の際には、視聴覚的教材を適宜用いたり、穴埋め式の講義ノートを配布したりすることで学生の理解が深まるようにした。

また、授業 14 回分のリアクションペーパーを1枚の用紙にして、学生が書いた疑問点や感想にコメントをつけて返却するようにした。これにより、学生と双方向のやりとりができるようにした。

① 担当科目名

学術ゼミ（臨床心理）（2単位） 2年生～4年生

② 内容・ねらい

臨床心理学におけるテーマ（「ストレス」や「意欲」など）について、心理学の立場から説明した理論や研究成果について専門的な知識を身につけることをねらいとした。学習の形態は、文献講読とその発表及びディスカッションのみならず、学生にミニ研究（テーマ設定とデータの収集・分析・まとめ）を行わせ、その指導を通して上記のねらいを達成できるようにした。

③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫

学習内容を文献のまとめと発表によって理解するよりも、テーマについて自分なりに考え、考えたことを調べてみるという作業を行った方が、より理解や関心が深まると考え、ミニ研究を行った。ミニ研究では、学生自身にテーマや研究方法を考えさせ、それが研究の形になるように教員が指導した。

① 担当科目名

教職実践演習（2単位） 4年生

② 内容・ねらい

以下の2つをねらいとした演習である。1. 教師としての力量と資質が4年間の学習を通して身についたかどうかを確認すること、2. 教師になるための課題を各自が見つけ、その課題を解決することで教師としての力量と資質を向上させること

③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫

教科指導、生徒理解・指導、学級運営など教師としての力量や資質が問われる場面を複数取り上げ、それぞれの場面で演習と実習を行った。学生が自らの力をふり返ったりより深めたりできるように、毎回グループ討議と発表、それに対する教員からのコメントと指導を行った。

① 担当科目名

養護実習（5単位） 3～4年生

② 内容・ねらい

養護実習は、事前指導、実習、事後指導で構成される科目である。事前指導では、学生の実習への準備や心構えを促し、実習に必要な知識や方法を身につけたりすることをねらいとした。事後指導では、実習での体験を基に養護教諭の役割や養護教諭に必要とされることを明らかにすることを目的とした。

③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫

事前指導では、児童生徒指導の実践的な内容を講義することで、実習で必要となる子どもとの関わり方について実際の学習ができるように工夫した。また、先輩学生の実習アンケートの結果をもとにして、実習の注意点や心構えについて講義した。事後指導においては、学生をグループ分けし、各グループにおいて実習で学んだことを KJ 法によりリストアップした後に整理し、養護教諭に必要とされることを概念化するワークを取り入れた。

① 担当科目名

研究の世界（2単位） 1～4年生

*オムニバスの講義で「心理学の研究の世界」の回を担当

② 内容・ねらい

本講義は、学術教養センターの教員が研究内容を紹介するオムニバス形式の講義である。本講義のねらいは、学生に「大学で学ぶとは何か」を考える機会を提供し、その中で、学生が自ら主体的に物事を考える力や学ぶ方法を身につけられるようにすること、また、幅の広い教養にたった社会的判断力を涵養できるようにすることであった。このねらいに沿って、報告者は自らの専門である心理学の研究について講義を行った。

③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫

受講学生は心理学の初心者であるため、わかりやすくなるように工夫した。また、心理学の中で行われてきた研究や報告者の研究内容を紹介する中で、疑問や問題意識をもつことの大切さや、大学での学びは研究活動と似ており本来面白いものであることを伝えようと試みた。

① 担当科目名

現代人権論（2単位） 1～4年生

*オムニバスの講義で「人権侵害と人間の心理」の回を担当

② 内容・ねらい

差別や偏見などの身近な人権侵害について、心理学の視点から講義した。人権侵害の性質や心理的メカニズムを講義する中で、誰もが起こす(被る)可能性のあるのが人権侵害であると受講生が気付けるようにした。

③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫

例示を多用し、理解しやすくなるように工夫した。深く思考するための問いや課題を設定した。

(2)その他の教育活動

①仁愛大学において生徒・進路指導論と生徒指導論を担当

②学校ボランティア活動の運営・指導

③ 教職サークル（メンバーは教員採用試験受験予定者）の運営・指導

④教員採用試験受験者に対する小論文等の指導

4. 研究業績

(1)研究業績の公表	
①著書	【0本】
②学術論文（査読あり） Kuroda, Y., Yamakawa, O., & Ito, M. (2022) Benefits of mindfulness in academic settings: Trait mindfulness has incremental validity over motivational factors in predicting academic affect, cognition, and behavior. <i>BMC Psychology</i> , 10(1), 1-14. 黒田祐二（2022）社会的場面における児童生徒の他律から自律への変化とその支援方法－自己決定理論による説明とその生徒指導への示唆－ 福井県立大学論集, 57, 63-86. 黒田祐二（2022）社会的行動に対する自律性支援とその内面化との関係－実証研究の概観－ 福井県立大学論集, 58, 117-148.	【3本】
③その他論文（査読なし）	【0本】
④学会発表等	【0件】
⑤その他の公表実績 書評（櫻井茂男著『無気力から立ち直る』の書評。『指導と評価』2022年4月号掲載）	【1本】
(2)科研費等の競争的資金獲得実績	
(3)特許等取得	
(4)学会活動等	

5. 地域・社会貢献活動

①-1 委員就任（国）
①-2 委員就任（県） ・福井県精神保健福祉センター巡回相談委員
①-3 委員就任（市町村） ・敦賀市教育委員会自己点検外部委員：自己点検に対する外部知見の提供 ・敦賀市奨学生選考委員会委員：敦賀市内中高校生の奨学生の選考 ・福井県永平寺町教育委員会いじめ・不登校サポート会議：永平寺町内の小・中学校におけるいじめ・不登校対策に関する助言
①-4 委員就任（その他公益法人等）
②国・地方公共団体等の調査受託等
③（公益性の強い）NPO・NGO 法人への参加
④（兼業規程で業務と見なされる範囲内での）企業等での活動
⑤大学間あるいは大学と他の公共性の強い団体との共催事業等
⑥公開講座、オープンカレッジ社会人・高校生向けの講座の開講
⑦その他 ・福井県特別支援教育センター教育相談会カウンセラー ・福井県立大学心理教育福祉相談室カウンセラー

6. 大学運営への参画

(1)補職
(2)委員会・チーム活動
<ul style="list-style-type: none">・教職課程部会・部会長・研究等における人権擁護・倫理委員会委員・ハラスメント等人権問題委員会委員・保健管理センター運営委員会委員・学術教養センター内教務・カリキュラム委員会委員
(3)学内行事への参加
(4)その他、自発的活動など
<ul style="list-style-type: none">①学校ボランティア活動の運営・指導②教職サークル（メンバーは教員採用試験受験予定者）の運営・指導③教員採用試験受験生への小論文等の指導